

## 分断深まる世界において注目される中露の戦略的連携強化の行方

一般財団法人 日本エネルギー経済研究所  
専務理事 首席研究員  
小山 堅

3月21日、モスクワを訪問した中国・習近平国家主席とロシア・プーチン大統領が首脳会談を開催し、両国の連携・協力強化および結束して米国・西側と対抗する姿勢を強調する共同声明を発出した。共同声明では、「両国関係は歴史上最高レベルに達し、着実に発展している」と明記した上で、安全保障面に加え、貿易、金融、エネルギー、鉱物、技術・イノベーションなど、包括的な経済分野での協力推進を確認した。習近平国家主席のモスクワ訪問は、ロシアがウクライナへの軍事侵攻を開始して以降、初めてであり、連携して西側との対抗姿勢を強めている中ロ両国の首脳による協議の行方に世界が注目していた。分断が進む世界の「一極」を代表する指導者二人が、何を、どのように協議し、どのような成果がまとまるか、に世界の耳目が集まっていたといえる。

今回、中ロ両国は「多極化する世界秩序の構築を加速する」として、現在の国際秩序を主導する米国に対して、結束して対抗する姿勢を明確に打ち出した。ウクライナ危機によって深まった世界の分断を前提として、中露が戦略的なパートナー関係を強化し、欧米に対抗する構えである。ウクライナでの戦争については、「責任ある対話が危機の持続的な解決を見出す最善の方法」であると述べつつ、ウクライナへの軍事支援を強化する欧米をけん制する姿勢も示している。また、ロシアに対する一方的な経済制裁に反対するなど、ウクライナ危機を巡る国際情勢に関して、中露としての立場を改めて表明することになった。

なお、先月、中国が発表した和平案に関して、何か具体的な動きが進むのかどうかも注目されたが、その点では、特に目立った展開は見られなかった。ロシア側は、中国による和平に関する「12項目の提案」について、「多くはロシアの立場と一致」「西側とウクライナがその準備をすれば和平の基礎になる」等の評価を示したものの、「その準備はできておらず、むしろ徹底してロシアと戦う姿勢のようだ」、と欧米・ウクライナを批判している。中国の仲介に関しては、先般のサウジアラビアとイランの国交正常化合意に関する中国の働きが世界的なニュースになっただけに、今回も中国の動きが特に大きな注目の的となった。仮に、中国がウクライナ危機においても、仲介者として重要な役割を果たせば、中国の存在感はさらに大きく高まることになる。その点でも欧米は首脳会談など中露トップ間の協議の行方に注目し、同時に神経を尖らせていたものと思われる。

ロシアとしては、ウクライナでの戦争継続に必要な支援を中国から確保すること、国際的な孤立を回避して行くことが重要であった。共同声明には「中国は強力で繁栄したロシアが必要」という言葉が盛り込まれ、その下で8項目からなる包括的な経済協力の推進が表明されることとなった。この経済分野に関する共同声明では、①貿易規模の拡大、②金融協力の強化、③エネルギー分野での長期協力、④鉱物資源などの長期・互恵的供給、⑤技術・イノベーション分野での協力、などが謳われた。西側からの経済制裁強化の下で、GDP成長率がマイナスに落ち込むなどの苦境にあるロシアにとって、中国との経済協力はますます重要になっている。エネルギー価格の高騰もあって2022年のロシアのエネルギー輸出収入は経済制裁下にあってもむしろ増加した。これもあって、当初予想よりGDPの落ち込みが小さくなるなどの状況にはあるものの、経済制裁はじわじわとロシア経済にボデイブローのような効果を及ぼしている。ロシアにとっては、中国との経済協力の重要性は

高まるばかりであり、中国にとっても、西側と対抗していく際の重要な連携パートナーであるロシアの弱体化を回避していくことは戦略的な意義を持つことになる。

そこで、改めて経済協力の推進が中露双方にとって重要になるが、その最重要なコア要素であるエネルギー分野に関しては、既に足元で中露間のエネルギー貿易が大きく拡大している。特に原油貿易の拡大は目覚ましく、2022年の中国によるロシア原油の輸入は中国側統計によると前年比8%増の8,625万トンとなった。ロシアは中国にとって、サウジアラビア（輸入量8,749万トン）に次ぐ第2位の輸入相手先となっている。ちなみに、2022年の原油総輸入量は5億828万トンで前年比0.9%減であり、サウジアラビアからの輸入は前年からほぼ横ばいであった。

その状況下で、ロシア原油の輸入が大きく伸びたのは、西側の経済制裁対象となったロシアの石油が国際市場価格から割安状態となり、中国から見れば有利な条件でエネルギー確保が図れる状況となったことも影響しているものと思われる。ロシア側からしても、西側の経済制裁で伝統的な販路から自国産石油が徐々に締め出される中、販路確保と石油収入維持という面で、中国向けの販売拡大は一定の重要性をもったといえるだろう。もちろん、西側制裁の下で、販路確保を迫られるロシアが販売先として依存を強める中国との力関係において、中国が買い手として圧倒的に優位に立つことになり、ロシアとしては苦渋を味わうような面が全くないということもないであろう。しかし、現実には、販路と収入確保のためには中国（やインドなど）への依存を強めざるを得ないのがロシアの状況でもある。なお、欧州向けの原油販売が低下し、販路確保の必要性が高まっていった昨年後半以降、特にロシア原油の中国向け輸出が大きく伸びている。昨年末の「ゼロコロナ政策解除」によって中国経済が再び動き出し始めていることもロシア原油の購入拡大につながっている可能性がある。一部報道では、本年1月の中国のロシア産石油輸入は昨年4月を抜いて過去最高となったが、3月はさらにそれを上回る水準に達する、との見方も示されている。

輸入金額でみると、2022年の中国のロシア原油輸入金額は583億ドル（前年比44%増）、天然ガス輸入金額は39億ドル（同2.6倍）、LNG輸入金額67億ドル（同2.4倍）となり、総計689億ドルの収入をロシアにもたらす結果となっている。エネルギーを中心として、中国とロシアの貿易関係の深まりは目覚ましいものがあつたといつてよいだろう。

しかし、同時に、長期的な視点での中露エネルギー関係には様々な課題があることも事実である。第1に、経済制裁の影響は徐々にロシアのエネルギー供給・生産能力そのものを抑制していく可能性がある。従来から、ロシアの石油・ガス生産の維持・拡大のためには、フロンティア地域、技術的に難易度が高い分野での開発（非在来型石油開発含む）、LNG関連技術が重要であり、欧米企業などとの連携・協力が極めて重要、との見方が示される場合が多かった。現在、連携を強める中国（やインドなど）がロシアのエネルギー開発への関与・協力を強めていく可能性はあるが、それが欧米企業の代替になるのか、不透明である。また、中国のロシアのエネルギーセクターへの長期的関与・参画については、今一つはっきりしない部分が残っている。今後、従来ドル箱であつたが今は大きく低下した欧州へのパイプラインによるガス輸出を代替するためには、（LNG輸出を拡大するか）新規パイプラインを建設して中国向け輸出を拡大する必要がある。現在稼働中の「シベリアの力」パイプラインに加え、「シベリアの力2」パイプラインの建設が必要であり、今回の首脳会談でも協議の対象になったものと想像されるが、ロシア側は「事実上、全ての合意が調整済み」としたのに対し、中国側からは具体的な言及や表明がないなどの差異も見られた。

西側と対抗するための結束を誇示しながらも、中露関係には複雑な要素も多い。世界の分断を構成する重要な2国間関係として、中露の戦略的連携がどのような機能を示しているのか、今後も世界を動かす重要要因の一つとして注目していく必要がある。

以上